

2023 年度「アメリカ短期派遣プログラム報告書」

生物産業学部・海洋水産学科・2 年・49622062・都築有南

1. プログラム参加にあたっての当初の目的

当初の目的は、大きく分けて三つあり、一つ目は英語力を高めることでした。私は将来研究者になりたいと考えていて、そのために英語の文献を読み解く力や英語で世界の人とコミュニケーションを取れるように英語の力をつけたいと思ったため、プログラムに参加しました。

二つ目の目的は、国際交流によって自分の視野を広げることでした。自分が持っている常識や日本人同士の暗黙の前提が通じない世界に身を置いてみることで、新しい視点からの物事の考え方や農業の知識など、さまざまなものが得られるのではないかと期待して参加しました。

三つ目の目的は、失敗を恐れず、未知の世界に飛び込むという経験を得ることでした。昨年 1 年間留学をした姉や、日本で働きたいと夢を実現するために奮闘しているアメリカ人の友人など、未知の世界に飛び込み、頑張っている人を見て、私もその経験を得てみたいと感じました。今回の短期留学プログラムには、長期留学を視野に入れた上で、留学がどのようなものか知りたいという気持ちで参加しました。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

まず、英語の力をつけるという目的を達成するために、現地の人が話す生の英語にたくさん触れるように行動しました。講義では、教授の話していることの隅々まで聞けるようにとても集中して聞き、ノートやメモを取って内容理解に努めました。また、店員さんやホテルのスタッフさんとお話してみたり、質問してみたりと自分から会話の機会をつくように努力しました。プログラム 12 日目の自由時間には、department of theater の演劇発表を見にいき、生の英語に触れる機会を作りました。

次に、国際交流をして自分の視野を広げるという、二つ目の目的の達成のためには、プログラム 8 日目のミシガン州立大学の学生とのミーティングの場を活用しました。集められた生徒さんは、日本に一度留学を行った経験のある人たちで、好きなアニメや、音楽、日本の食などの共通の話題で盛り上がることができました。

三つ目の目的である、失敗を恐れず、未知の世界に飛び込むという経験を得ることは、プログラムに参加することで達成できたと感じています。

下にプログラム内容を記します。

<1 日目>

デトロイト空港に到着して、ロンダさんと合流後、バスで MSU の中にあるホテル (Towne Place Suites) に向かいました。ホテルは、とても広く、寝室が分かれており、プライベート空間もあったためとても居心地が良かったです。また、キッチンも充実していました。夕飯は、みんなでホテル近くのピザ屋さんに行き、シカゴピザとクラシックピザを食べました。

<2 日目>

朝 8 時に MSU のキャンパスに向かい、Agricultural and Natural Resources 学部のロンダさんとジェフさんと学部長のケリーさんから、MSU の学部や学びなどについて説明を受けました。その後は、ボイストレーナー兼教師である、レイチェルさんの英語の授業を受けました。発表、会話、レクチャーなどアウトプットの多い授業でとても楽しかったです。MSU のダイニングで昼食を取った後に、Meijer というマーケットに行きました。日本のスーパーマーケットと全く異なっていてとても刺激的でした。

<3 日目>

MSU キャンパスに向かい、レイチェルさんの授業を受けた後、Community Sustainability 学部のムラリさんのアメリカの農業についての講義を聞きました。アメリカの農作物や、ミシガン州の農業、農業の歴史などのレクチャーがあり、とても面白かったです。午後は、MassTimber についての講義を受けた。持続性を考えたエコフレンドリーな建築として、日本の木材建築とは異なる MassTimber について知ることができてよかったです。その後、ポールさんという方にスパルタンスタジアムのツアーをしてもらいました。

<4 日目>

この日はフットボール観戦をしました。静かな印象であった MSU キャンパス内が一変して、MSU のロゴの入った T シャツやトレーナーを着た人たちがテントを立てて、その中でバーベキューをしたり、ゲームをしたりととても賑やかで、お祭りのようでした。フットボール会場もたいへい賑わっておりほぼ満席で、フットボールの試合中はみんなが一体になって応援する様子がとても印象的でした。日本にはないカルチャーでとても刺激的で楽しかったです。

<5 日目>

ロンダさんとジェフさんの運転で Traverse City に移動しました。途中でレストランに行き、その後 Sleeping Bear Dunes を観光しました。とても美しい場所で雄大な自然の中で観光できました。ホテル Bay Shore Resort は、キッチンなどの設備はありませんでしたが、室内プールがありました。また、湖がすぐそばにあり、とてもきれいでした。

<6 日目>

園芸研究センターでニッキーさんが、Traverse City の農業についてお話をしてくれました。個人農家や地元の農作物を支援するために政府が寄付しているという話や家族経営の農家にとって六次産業は負担が重すぎるという話など、日本と同じような現状や悩みがあるということがわかり興味深かったです。次に Cherry Republic という場所に行き、昼食を取って、お土産を買いました。お土産で買った商品のパンケーキミックスやチョコレートを帰国後に食べましたが、とても美味しかったです。夜は、Traverse City の街を観光しました。

<7 日目>

チーズ工場に行き、MSU の卒業生の方にチーズの作り方を教えてもらい、チーズの試食をしました。その後、ワイナリーに行き、葡萄畑の説明や醸造所の見学などをしました。日本との葡萄畑の違いがあり、興味深かったです。その後 East Lansing に帰りました。

<8 日目>

MSU キャンパスでレイチェルさんの授業を受けたあと、キティさんのアメリカの歴史についての講義を受けました。昼食を挟み、次は酪農業についての講義を受けました。最後は、

MSU の学生さんと交流する機会があり、同年代のアメリカ人とお話しできてとても楽しかったです。

<9 日目>

学生さんが管理しているグリーンハウスの見学をしました。設備も素晴らしく、土壌専門の引率の教授も感心されていました。次にオーガニックファームに行きました。パーマカルチャーと呼ばれる、持続可能な農業形態についても研究されているようで、その農場も見学しました。

<10 日目>

レイチェルさんの講義を受けた後、Dairy store に行き、アイスの工場を見学しました。その後、ブラックチェリー味のアイスを食べました。

<11 日目>

当初フリータイムの予定でしたが、ロンダさんがファーマーズマーケットに連れて行ってくれました。日本にはないような珍しい野菜類や食品、加工品がたくさん売っていました。パンプキンドーナツを食べましたが、とても美味しかったです。ファーマーズマーケットに出店している方はみなさん優しく、ご好意でとうもろこしを無料にしてくれました。

<12 日目>

お昼ご飯は、ジップロックに入れた手作りのサンドウィッチを Horticulture の庭園をみながら食べました。午後は、Department of Theater の演劇を見に行きました。劇のクオリティー

<13 日目>

朝食をレイチェルさんのおすすめのカフェで食べた後、レイチェルさんのお家にお邪魔しました。レイチェルさんのお家は、おしゃれなお家で庭にはジップラインがあり、マシヨマロを焚き火で焼いて食べました。その後 MSU の中を探索しました。綺麗な街並みのショッピングストリートがありました。途中、SPIN という電動スクーターに乗って移動しました。30 分 9 ドルと値段は高かったのですが、とても楽しかったです。夕ご飯は、ホテルの外の一角でバーベキューをしました。最終日ということで、みんなで書いたメッセージ入りのラグビーボールをロンダさんとジェフさんに渡しました。

3. 目標達成度の自己評価

私は、今回の短期留学アメリカコースを通して、私がこれから英語を習得するためにどうしていくべきかが明確になり、長期留学をしてみたいという気持ちが強くなりました。ネイティブの人とコミュニケーションを取り、ネイティブ同士のコミュニケーションを間近で観察すると、英語の試験勉強をするだけでは得られないネイティブの会話の仕方や表現方法を学ぶことができました。さらに、現地の人のおおらかさや優しさに触れて、人間性についても学びがありました。

プログラムに参加して、リスニング力を大きく成長させられたと感じています。この短期留学プログラムは二週間という短い期間での留学であるため、英語力を成長させられるか不安に思っていたのですが、プログラムの最初と最後では英語の聞き取りやすさが大きく変わっていました。英語を理解するためには、集中力と体力がいるため、長時間の講義後などは特にドッと疲れが出ましたが、生の英語を理解できたという嬉しさや達成感を感じるこ

とができました。また、プログラムを経て、もっとリスニング力を向上させてより英語を理解したいという気持ちが大きくなり、英語の勉強に対するモチベーションも上がりました。

スピーキングについては、勉強をより頑張っていく必要があると感じました。自分の意見や思っていることをパッと口に出せなかったため、会話がそこで終わってしまい、「もっと会話を弾ませて、色々な話を聞きたいのに」と悔しい思いをしました。また、文を考えている時間が長く、「もっとテンポ良く英語を話したいのに」、「もっと色々な表現の仕方を知って自分の感情を表現したいのに」などと自分の力不足さをもどかしく感じるが多々ありました。今後、スピーキングの能力向上のために、ますます努力していこうと決心しました。プログラムを通しては、英語で意思疎通ができたという成功体験によって自分にとって英語がただの勉強としてのものではなく、コミュニケーションのためのツールとして実感できたということが1番の成果でした。

また、国際交流をする経験を得て、アメリカ人の文化や慣習を知ることができて、とても有意義でした。しかし、ネイティブの人に話しかけたいと感じているのに勇気が出ず、話しかけられなかった場面もあり、オープンに誰にでも話しかけられるようになりたいと感じました。そして、今回のプログラムで国際交流をしてみて、私もアメリカ人の会話術を身につけたいと感じました。アメリカ人の会話は、日本の会話の形式と少し異なり、日本人の会話では、相手の話に対して共感することが多いような気がします。アメリカ人は共感というよりは、自分の意見や自分の考えを出してグループに共有しその違いを楽しむような会話の仕方、非常に面白いなと感じました。自分の意見を堂々と話し、他の人と共有していく、アメリカ人の会話術を私も身につけたいと強く思いました。これは、ネイティブの会話の中にいなければ、気がつけなかったことだと思うので、非常に有意義な体験だったと感じています。

4. 今後の取り組み

- ・オンライン英会話でスピーキングの練習を行い、自分の意見を英語で素早く言えるように練習すること。
- ・日常生活において英語で話す機会を多くする。長期留学の受験資格となる TOEFL の本格的な勉強をすること。
- ・TOEFL などの勉強だけでなく、さまざまな英語のコンテンツに手を出して、英語圏の人たちが使うようなスラングや、流行りのものについても知ること。

5. その他

(ア)持っていて良かったもの

- ・長袖の服、羽織るもの：最高気温が 20 度を超えない日も多くあり、薄手の長袖にパーカーを着るぐらいがちょうど良いなと感じました。特に、飛行機内は非常に冷えるので、厚手のパーカーが必要になりました。ただし、日によって暑い日もあるので、半袖も持っておくと良いです。
- ・小さい手帳とペン：室外で説明を聞くことも多いため、バックからパッと取り出してメモを取れる、小さい手帳は非常に役立った。
- ・ジップロック（多めに）：アメリカンフットボールの会場では、透明なバックのみ持ち込

みが可能だったため必要になりました。また、夜ご飯の余り物をパックしたり、ちょっとした弁当箱として用いたりした。

- ・食器用スポンジ：部屋にスポンジがなかったため、必要になりました。

- ・食料品：私は、スープの素や、小さい袋ラーメン、小さいパックのマヨネーズ、出汁の素を持って行きました。外食行くのもなんだか面倒だなと思うときは、日本から持ってきた食料を食べました。また、夜はセルフアレンジングが多く、パックのお米があると良いかもしれません。

- ・洗濯ネット：他の人と一緒に洗濯するときに散らばらずに済むためよかったです。

- ・ショルダーバック：お財布やスマホが入る小さいショルダーバックがあると取り出しが簡単になりました。

- ・ポケット Wi-Fi：私は、JAL のポケット Wi-fi の無制限の契約でレンタルをしました。大学内とホテル内は Wi-Fi があるが、私は常時ポケット Wi-Fi を使用していました。

- ・サングラス、帽子、日焼け止め：日中での日差しが強いため、必要でした。特に、アメリカンフットボールの試合中は、日差しが強い中、長時間座るためこれらは必須でした。

- ・大きいエコバック：お土産を入れたり、スーパーで買ったものを入れたりできました。

- ・日本のお菓子：個包装のお菓子を何種類か持っていきましたが、現地の人に渡すと、とても喜んでくれたので話題作りにも持っていくと良いかもしれません。

- ・ホテルの部屋用のサンダル

- ・水着：Traverse city で泊まるホテルには、室内プールがあり、さらにホテル近くの湖も泳ぐことができるため、持ってきておくと遊べます。

- ・学生証の写真：自由時間に見にいった department of theater の演劇で、学生割引を使うために必要になりました。

(イ)用意したがいらなかったもの

- ・飛行機内で使うスリッパ

飛行機に既に用意されていたため、必要ありませんでした。

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

クレジットカード 230 ドル程度

現金 100 ドル程度

6. 次年度以降の参加者へ

(ア)事前に準備した方がよいこと

- ・自分の学科や自分の興味のある分野について英語で話せるようにしておくこと

さまざまな人に自分の学科をよく聞かれるので、それについて説明できるようになると会話が広がり良いと思います。

(イ)勉強しておくべきこと

- ・プログラム中に受ける予定の講義や見学場所について事前に調べておくこと

英語で説明を聞く際に、名詞を知らなければ全く内容が理解できなくなってしまうた

め、事前に調べておくの良いです。

- ・農業に関連する単語を調べておくこと

農業についての講義やレクチャーが多いため、説明で用いられそうな農業の用語を知っておくと、内容理解がしやすくなります。

- ・Listening 力を上げること

プログラム中には本格的かつ多くの講義を受けるため、スピード感のある英語を長時間聴き続ける、体力やリスニング力を身につけておく必要があります。私は、リスニング力を上げるために、TOEFL の Listening 対策を行っていました。TOEFL のリスニングは、2～5 分程度の講義を聞き、その内容に関する質問に答えるという形式のものです。英語の講義を聞く機会の多かったこのプログラムでは、勉強していてよかったと感じました。TOEFL の問題は難易度が高く、最初は全く内容理解ができませんでしたが、毎日ちよつとずつ聞き続けていると、数ヶ月でだんだんと聞き取れるようになりました。さらに、TOEFL は長期留学の資格にも使えるためおすすめです。

- ・英会話に慣れておくこと、英語を話す練習をすること

プログラムに参加して、実際に英語でコミュニケーションをとる上では、正確でなくとも、素早く英語を話すことの重要さを感じました。英会話に慣れるためには、オンライン英会話を受けることや、一人英語をぶつぶつ話すことで練習になりました。

- ・留学用、旅行用の英会話の練習をすること

買い物する時の英会話や、飛行機でキャビンアテンダントさんとの英会話など、簡単そうでも瞬発的に英語を話すのは、何も練習なしでは難しいです。私は、その練習のために、nobu yamada さんの「絵で見てパツという英会話トレーニング海外旅行編」という参考書を見ながら練習しました。オホーツクキャンパスの図書館でも借りることができました。シチュエーションによって分けられていて必要な時に見やすく、非常に絵も可愛いのでおすすめです。

- ・レストランでのチップの出し方

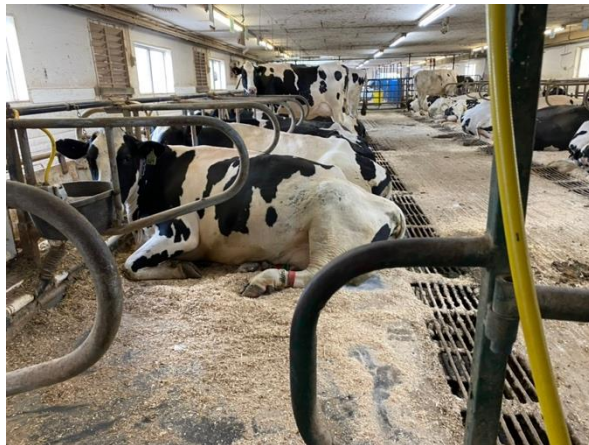
クレジットカードで払うと、領収書にサインを書くように求められ、署名欄の上に tip と書かれた欄があるのでそこに〇 dollars と書くことで、チップを払うことができました。また、基本的にはチップは商品の 15%程度の値段を出せば良いようです。



①Spartan Stadium でのフットボール観戦



②Traverse City にある Cherry Republic



③Dairy Cattle の研究施設



④Dairy Store のブラックチェリー
アイスクリーム



⑤Leelanau Cheese の工場見学



⑥Farmers Market の様子